

平成24年3月 第309号

大代地区コミュニティ推進協議会

(広 報 部)

事務局：大代地区公民館 (生涯学習課分室)

TEL 022-368-1141 (内線510)

ふれあい

掲 載 目 次

- 震災に関するアンケート結果について・・・1
- 防災対策について「県」からの回答・・・2
- コラボレーション・・・・・・・・・・・・2
- 進路に向けて頑張っている三年生・・・3
- 振り込め詐欺に要注意・・・・・・・・・・3
- ふれあい俳句・・・・・・・・・・・・・・4
- 大代の歩み (四十四)・・・・・・・・・・4

大代地区の世帯数 (平成24年1月31日現在) : 東区341、中区304、西区276、北区116、南区571、合計1,608

震災に関するアンケート結果について

大代東区町内会
会長 三浦 徳男

千年に一度の東日本大震災から早一年になろうとしています。振り返ると、一年がこんなにも早いものかと思えるのは私だけででしょうか。

市では、復興に向けた「多賀城市震災復興計画」を策定し、十年後の平成三十二年度まで復興を目指す計画です。

さて、東区の震災での被害は、幸いにも人的被害が無かったものの家具の破損や室内の亀裂、屋根瓦の損壊など、この一年、修繕などで大変心労が多かったことと察します。

このことから、震災後五ヶ月過ぎたこの時期に、当時を振り返り、帰宅や避難をどうしたのか、どんな状況で過ごしたのか、今後の備蓄をどうするのかなど、具体的に知るべきであると考え全世帯にアンケートのお願いをしました。実施のやり方、内容等については、アンケート(案)について役員会で検討・整理し、班長さんにアンケートの配付、回収をお願いしました。A4、2枚で15の質問を行いました。

主な質問は、①地震の発生時は何処で津波や避難指示を知ったか。②仕事や外出していた方は、家までの帰りはどうしたのか。③避難をしたか、避難したとき何処に避難をしたのか。④自宅から避難したとき、安否確認用の旗(町内会で配付をしている安否を確認する黄色の旗)を掲げたか。⑤避難された

方の避難所における満足度や不満な点について。⑥震災前から自宅に備蓄をしていたか。⑦震災後備蓄や震災に関して心掛けていることや実行していることはありますか。⑧今後、町内会ではどんな訓練が必要か。⑨防災訓練を行って行く上でどんな訓練をしたら良いかなど。最後に震災以外でも、町内会に望むことなど自由な記述のお願いもしました。回収率は、五十二・九%で百八十世帯から回答がありました。記述も含めると三十七ページになる回答結果でしたので詳しい記述は出来ませんが、主なものとして、

家具等が壊れた被害

八十四%

東小体育館、集会所や親戚等に避難した人

六十六%

などの回答がありました。記述の中で特に印象に残ったひとつに、あの「大津波が来ているのに中峯橋を渡って東小学校の避難所まで行く気にはなりません!」という内容のものが、津波に対する避難所の指定に一考させられる記述がありました。広報が聞き取れない中で、実に八十%の方が近所から津波や避難指示などの情報を聞いたと回答しています。「向こう三軒両隣」の大切さを痛感させられました。その他に市や町内会に対する厳しい意見もありましたが、全体的にご苦勞さんなどのお褒めのありがたい言葉も多くありました。あの未曾有の大震災の中で避難所で過ごしたことや物資の配付、給水などで全てに満足した方は少ないかと思えます。その他にも数多くの意見や提案がありましたので今後の町内会の運営や防災訓練に生かしていきたい

いと思えます。また、このアンケートとは別に、昨年の十月末に、大代駐在所の武田所長と多賀城消防署の佐藤署長に講話をお願いしました。震災では、第一線で活躍され、体験した生の話を聞くことが出来ましたし、防災訓練に対するアドバイスも受けました。

今回の震災により、市の地域防災計画の見直しや消防署の指導を受けながら訓練して行きたいと思っております。またこのアンケートによる貴重な意見等を生かすため、参考資料として市に提出致しました。その他必要とされれば、必要な方に提供致します。二月号の「防災・大代東」（町内会の防災広報誌、毎月全戸配付）でA4、二ページの報告をしていますが、四月の総会の時に詳しくまとめた報告をします。また、何時でも見られように集会所に備えて置きますのでご覧下さい。

防災対策について「県」からの回答

大代地区防災対策協議会
会長 米澤まき子

昨年、大代地区防災対策協議会として、「県・市・JX日鉱・日石エネルギー」に対し、東日本大震災による大代地区内の被害状況、今後の安全策等について要望書を提出致しました。その際、「県」からの回答が期限までに間に合わず、今年の一月二十三日に回答をいただきましたので、その内容についてお知らせ致します。

○ 要望内容

一 緩衝緑地帯の早期復旧と緩衝緑地帯一帯の見直しを図るとともに発災の際は、燃焼に生じる高温度や硫化系ガスが住民に及ばないよう十分な対策を講ずること。

二 市が個別の見舞金又は大代地区全世帯に対する支援策を講ずる際、財政的援助を行うこと。

三 一の対策を講ずる際には、住民に対する説明会を随時開催し、広く住民の意見、要望を取り入れること。

○ 回答内容

一 仙台港多賀城地区緩衝緑地の復旧については、災害査定が平成二十三年十二月末までに終了したため、公園内に借り置きされている被災車両や瓦礫等の影響のない施設から復旧工事に着手し、その後撤去と並行しながら残りの施設に順次着手する予定です。

なお、緩衝緑地内の樹木帯幅については、現在15〜20m程度が確保されておりますが、これ以上の樹木帯の幅を確保するには公園敷地を拡大するか、運動施設の縮小見直しが必要であることから困難と考えています。

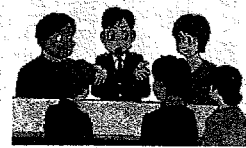
発災時の対策については、速やかに消火活動が行えるよう、石油コンビナート防災訓練等を通じて、事業者及び消防機関と連携を強化してまいります。

二 市から相談があった場合には、内容に応じて対策を検討してまいります。

三 仙台港多賀城地区緩衝緑地の災害復旧工事と

実施する際には、住民説明会を開催したいと考えています。

以上のような、回答でしたが、説明会の時期については、今後調整を図り実施したいと考えております。



コロナホレインジョン

大代東区 佐藤捷逸

寒い日が続いておりますが、高齢者になると本当に健康が心配になります。寒いところに出ると風邪ひきとか、肺炎などが心配されます。特に肺炎は、高齢者にとって死亡率の高い病と聞きます。高齢者の肺炎の症状は、全く自覚のないまま進行するようです。例えば、発熱を感じなかったり、苦痛を感じない食欲不振、倦怠感などがあげられます。私も経験しましたが、全く同じ症状でした。聞いた話によると、高齢化して弛緩した肌は、体温を調整し難くしていると言われます。従って、環境の変化についていけないのが原因のようです。暑いときや寒いときは、しっかりと体温を調整できる肌を作ることが大切で。

それから高齢者の特徴として肺活量が減少することだそうです。肺活量は、二十五歳で百%とした場合、六十八歳で八十二%まで減少するそうです。従って、呼吸して吐き出した後の空気の残量は、十

年間で三％～四％ずつ増加するそうですが、老人生活に叫ばれている有酸素運動も大切な生活改善の一つであると思います。

WHO（世界保健機構）では、健康とは精神的にも、身体的にも、社会的にも健全であることとされており、しかし、老人に関係なく時折反社会的な不健全者を耳にします。

話は変わりますが、学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力などよく耳にする言葉ですが、（地域の子供達の健やかな成長を見守りながら）登下校時の社会的不健全者から守る犯罪抑止、老人の健康維持用具それと相手のいらぬ通学路の散歩（寒いときは厚着をして発汗する程度の散歩）こんなコラボレーションはどうでしょうか？

進路に向けて頑張っている三年生

多賀城市立東豊中学校

教頭 阿部 光男

東日本大震災の影響で、行事の日程や内容の変更などが必要な平成二十三年度でしたが、お陰様で現在は落ち着き、例年と変わらない教育活動ができています。また、生徒たちは、震災の影響による心の問題を訴えることもなく、明るく元気に学校生活を送っています。これも、保護者の皆様のご協力と地域の皆様のご支援によるものと心より感謝申し上げます。

さて、この時期の中学校では、三年生が卒業後の進路に向けて、「人生初の試練」に立ち向かう日々

が続きます。すでに、私立高校の推薦・一般入試、公立高校の推薦入試、高等専門学校の推薦・一般入試が終わり、合否も発表されました。そして今は、三月八日（木）に行われる公立高校一般入試に備えて頑張っているところです。また、一・二年生にとっては、一年後や二年後の自分の姿を三年生の姿に重ね合わせ、学習への取り組みや生活について見直す時期でもあります。

この「人生初の試練」は、自分の未来を切り開くためには必ず通らなければならないものですし、これから出会ういくつかの「試練」のひとつ目ではないでしょうか。しかし、中学生にとっては精神的に大きな重圧ですし、できれば避けて通りたいと思うものです。そのような状況にもかかわらず本校の三年生は、受験勉強に集中して取り組んだり、面接練習に真剣に臨んでおります。また、合否が発表されると、良い結果の生徒と残念な結果の生徒が同じ教室で過ごすことになり、なんとなく気まずい雰囲気になりがちですが、そのようなこともなく、中学校での残り少ない日々を協力的に過ごしています。

このように、進路に向けて頑張っている三年生です。地域の皆様には、これまで以上に温かく見守っていただき、できれば励ましのお声がけをお願い致します。



「振り込め詐欺に要注意」

大代西区 佐藤聰子

テレビ、マスコミ等で高齢者を狙った悪質商法や詐欺が頻発しています。大代地区も被災地域とは言え安心はできません。悪さも時代とともに変化し、手を変え品を変え巧妙になってきています。紹介する例を参考にお互い被害に遭わないようにしたいものです。

○「電話番号が変わった」という電話は詐欺！

息子や孫を名乗るオレオレ詐欺（借金をした、会社でトラブルが起きた責任を取らないといけないなどの理由で預金を振り込ませる手段）

対策

- ・元の電話にかけ直す。
- ・誰かに相談する。
- ・すぐに振り込まない。

○「カードを預かります」という電話は詐欺！

警察官等を名乗る詐欺対策

- ・カードを渡さない。
- ・暗証番号を教えない。
- ・ATM利用限度額を引き下げておく。

※警察官や銀行協会職員がキャッシュカードを預かったり、暗証番号も聞くことは絶対ありません。

○「はつきりしない請求」は無視してまず相談

架空請求詐欺（有料サイトの利用料金が未納、裁判になるなどというメール等を送りつけて支払いを要求する手口）

対策

・はつきりしない請求には応じない。
・相手に連絡しない。

※不審電話を受けた、はつきりしない請求がきた、こんな場合は、電話#9110または最寄りの警察署へ相談するのが一番です。

○ワンポイント

振り込んだ口座の残高や被害額に応じて返金を受けられる可能性があります。(振り込め詐欺救済法)でも、一番良いのは、怪しいものには手を出さないこと、首を突っ込まないことです。

“ご用心ご用心!”

ふれあい俳句

大代西区 藤田遊子

春風や 青い山脈 口ずさみ

春うらら ベンチに一つ 古辞典

さあ歩け メタポになるぞ かたつむり

大代の歩み (四十四)

大代南区 渡邊 巖

当時の町村長等は、事務は練達であったが、疾病や事故などで早期退職者が多く、吏員(りいん)に至っては、当時の自由民権運動に由来する「民力休養」を「人民休養」と恣意(しい)に解釈して、業量と執務時間の節減を頻(しき)りに実行した結果、そのしわ寄せが役場職員の給与に及んだものと

思われる。

此の頃の村役場は、市川の玉川寺に置かれていたが、明治二二(一九九〇)年二月二日の夜、原因不明の火災で寺は焼失し、関係書類も何一つ持ち出せなかった為、多賀城村の発足当時から明治二六(一九九四)年以前の公的な部分の記録は不明と云われているが、予算項目で雑収入となっている小学校の授業は一人(月額)五九銭強で、仙台市(一円二〇銭余)の僅か半分程と云えるが、村税納入者六五五名の約四〇%(二六三名)が村税六〇銭未満であること、当時の生活や物価等を考慮すれば少ない負担とは云えず、当時の村人口を約五千人と推定した中で、就学生が凡(およ)そ一千人は理解出来るとしても、全国の就学率七五%と比べて多過ぎるようだ。

村税の地価割は、租税の一七%強で算出しているが、これは村の財政収入の四〇%を占める額である。此れ等の状況から村内の諸産業について状況を概観してみよう。

当時、村の商工業者のうち営業割りの納入者は六四名で、地域別では八幡一八名、大代一三名、南宮八名、その他二五名である。営業品目は、三三名が単一商品を取扱い、残りの三二名は二種類以上を扱う「よろず屋」的な商店であった。其のうち明治二九年度に於ける大代の業者(二三名)について諸営業等級案(年額)よれば、一ヶ年収入見積額が二一六〇円以上、税額が二二円七〇銭であり、全商店の営業項目(延べ店数)は...

以下次号へ

お知らせ

○公民館復旧工事の進捗状況(二月十八日現在)



体育室の床下、基礎に鉄筋を敷いています。

復旧工事も解体作業から床、天井の基礎工事の段階に入ってきました。早期再開が待たれますが、思いの外、被害箇所が多く、三月末の完成は難しい状況にあります。ご迷惑をおかけしておりますが、もうしばらくお待ち下さい。具体的な日程等については、分り次第お知らせ致します。

編集後記

毎度、広報誌「ふれあい」をご愛読いただきありがとうございます。地域の方々には、毎月の発行に際し、身近な地域情報誌として読んでいただくために各町内会、関係機関、団体、企業等に原稿をお願いし、記事を掲載しております。ただ震災以降、各団体やサークルなどで活動を休止しているところが多く、記事が集まらない状況が続いております。来年度から事業を再開されるところもあると思いますので、皆様方からホットな話題やお役立ち情報などがございましたら原稿をお寄せ頂きたいと存じます。ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

編集委員一同